

広がる自動車サービスの未来へ 新世代のメカニックを養成



実習の前に学習の内容を理解

学校法人久留米工業大学のグループ校である久留米工業技術専門学校は、国土交通省指定の一種養成施設として、九州エリアでもトップクラスの設備、規模を有する専門学校です。昨今、サービスの現場においても技術と知識、顧客対応力などが求められる中で、こうした幅広い能力を実践の場で生かせるエンジニアの養成にあたっています。

「即戦力」が最大のニーズ

同校は昭和34年に前身の西日本高等工科大学として創立、同40年に自動車整備士の第一種養成施設として指定を受け、以来半世紀近くにわたって、主に九州エリアの自動車ディーラー、サービス業界に向けて多くの自動車整備士、車体整備士を輩出してきました。この間、自動車サービスに対するニーズも高度化、多様化し、それともなってエンジニアの役割も技術者としてのみならず、サービスアドバイザーとしての役割も拡大しています。

「いま企業に求められているのは、即戦力としてのメカニックですね」と話されるのは同校の廣瀧勲校長。二級整備士の資格はもちろん「明るく、しかも会話ができること」がその条件といわれます。単にエンジニアとしてサービスに携わるだけでなく、お客様の立場に立った説明、提案が行えるアドバイザーとして、総合的な能力が求められているのです。



校長 廣瀧 勲氏



検査ラインにはネットワークシステムも導入

先進の設備で学ぶ実践サービス

同校は二級自動車整備士の取得を目標とする自動車工学科、および二級課程の修了者を対象とした車体整備専攻科からなっています。約2万平方メートルの広大なキャンパスには教室、実習室のほか学生寮などの付属施設を含め7棟の校舎を有し、自動車整備、車体整備の各部門に最新の教育設備を導入しています。「社会に出て、最新の設備機器を知らないのでは即戦力として対応できません」と江上瀧雄次長。そのため、同校では最新の整備機器、測定機器の導入を積極的に



シャシーダイナモメータも完備



ホイールアライメントテスター「B-DYNA」

推進されています。自動車工学科では検査ライン、シャシーダイナモメータ、B-DYNAなどの検査・測定機器、また車体整備専攻科では2基の塗装ブース、床面吸塵装置など、いずれも実際のサービスの現場でも最先端の設備と位置付けられるものであり、オープンキャンパスの際にも、こうした設備機器を見ていただくことで同校を志望する高校生の保護者にも高い評価を得ているとのこと。



塗装ブースも2基設備



スプレーガンの基本操作を練習



パテ付けの実習



下地作業に床面吸塵装置を設備 (5号館車体整備実習室)

埋設式オートリフトがずらりと並ぶ2号館シャシ実習室



卒業生に広がる、活躍のステージ

「以前のように、大学をあきらめて仕方なく専門学校へ…というイメージは、今は全くありませんね」と廣瀧校長。専門学校で技術、資格を取得して自己実現を目指すという職業への目的意識を持った学生が多いそうです。

ことに一級整備士の制度がスタートしたことにより、メカニックの社会的なステータスも認知されてきたということです。車体整備専攻科や大学の工学部への進学意欲も年々高まっているのが現状だそうです。

また、卒業生の進路が広範囲に拡大しているのも昨今の特徴的な傾向です。ディーラー、整備工場という従来からの枠組みを超えて、昨今では大学編入学希望者も増加しています。整備機器の関連においても、今年バンザイにも2名の卒業生が就職するなど、さらに広範囲な業種、職域へ活躍の場が広がることが期待されています。

同校では、より優秀な整備士の育成を使命とする専門学校として「国家試験100%合格」を目指し、また来年度には同法人内に一級整備士の課程の新設も予定されるなど、一貫した人材の養成に全校をあげて取り組まれています。



キャンパスは20,100平方メートル。

- ① 本館(事務室、教室他)
- ② 2号館(実習室)
- ③ 3号館(実習室、教室)
- ④ 4号館(工作室他)
- ⑤ 5号館(実習室)
- ⑥ 学生寮
- ⑦ 7号館(教室、講堂他)
- ⑧⑨ 教習所
- ⑩ 学生駐車場